

生きものつながる世田谷プラン行動計画（令和4年度～令和5年度）案の概要

行動計画策定の趣旨

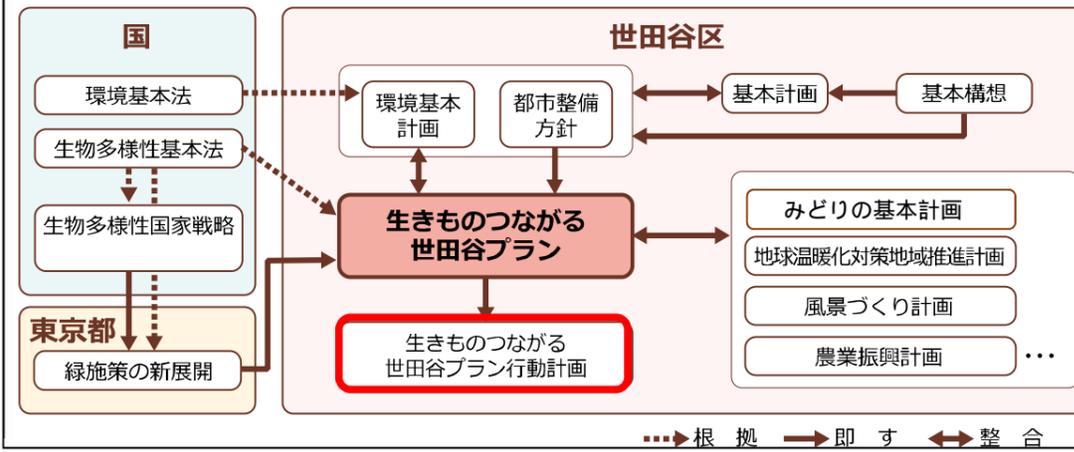
生きものつながる世田谷プラン行動計画は、生きものつながる世田谷プランの目標を達成するための取り組み内容について、環境審議会の意見を踏まえて区が策定し、区が主体となって取り組みを推進していくものです。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を一つの契機として、区民との協働により生物多様性の保全と持続可能な利用を進め、生きものとともに暮らすと、みどり豊かな環境を次代に伝えていきます。

また、近年の地球温暖化を要因とした気候変動が生態系に与える影響やコロナ後の新たな生活環境もふまえた取り組みを進めてまいります。

今回の行動計画は、世田谷区基本計画との整合を図るため、令和4年度から令和5年度の2か年の計画として策定しました。

生きものつながる世田谷プラン行動計画の位置付け



基本計画との整合

元号	平成29	30	令和元	2	3	4	5	6	7	8	9	
西暦	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	
基本計画	基本計画（10年間）							次期基本計画				
生きものプラン等	生きものつながる世田谷プラン（16年）											
	行動計画（5年）						本計画					

3つの柱	9つの目標	令和3年度末までの評価（見込み）	次期行動計画の主な事業内容（案）
生物多様性を「守り、育てる」	目標1 多様な生きものが生息・生育する場を保全する	国分寺崖線や水辺の保全、生物多様性に配慮した場づくり、外来種や野生生物に対する適切な対応により、生物多様性を「守り、育てる」事業は順調に推進している。	市民緑地契約制度の活用推進、国分寺崖線の魅力周知「きしべの路」「おもしろいせの路」の案内板での啓発、湧水保全重点地区内の助成、緑化指導 生物多様性に配慮した水辺づくり、3軒からはじまるガーデニング支援制度、建築事業者などに対する普及啓発、生物多様性に配慮した学校・公共・公益施設づくり 関係行政機関、学校、団体と連携した啓発・防除活動、ハチとの共生の普及啓発
	目標2 多様な生きものの生息・生育に配慮した場を創出し、生きものネットワークを形成する		
	目標3 外来種や野生生物の適正管理および共生に向けた普及啓発に努める		
生物多様性のために「協働する」	目標4 生物多様性の恵みを分かち合うために、様々な主体や施策を相互に連携・協働する	新型コロナウイルス感染拡大によりイベントや区民による生物調査は一部中止となったが代替事業を行い生物多様性のために「協働する」事業は概ね順調に推進している。	国・東京都・関係自治体との生きもの情報の共有、活動団体との意見交換会の開催 トラスト運動支援者数の拡大 生物調査の実施、ホームページなど多様な情報媒体を活用した生きもの情報の発信
	目標5 生物多様性の向上のために自ら進んで行動する多様な主体を増やす		
	目標6 生物多様性に関する情報を一括して管理・発信できる仕組みを整える		
生物多様性の恵みを「理解し、楽しみ、伝える」	目標7 多様な主体が生物多様性の恵みを身近なこととして理解する	新型コロナウイルス感染拡大によりイベント等が一部開催できなかったものの、「生きものつながる世田谷プランわかりやすい版」の作成・配布等、生物多様性の恵みを「理解し、楽しみ、伝える」事業はおおむね順調に推進している。	「生きものつながる世田谷プランわかりやすい版」配布による啓発、ビジターセンターの運営 ふれあい農園等の運営による農地を活用した多面的な利活用推進、グリーンインフラ学校の開催、体験・学習機会の充実 農業農地が有する多面的機能の情報発信
	目標8 将来にわたって恵みを楽しみ続けるための人材育成・教育の仕組みを整える		
	目標9 生物多様性とともにある世田谷の伝統文化を継承する		

9つの目標を総合的かつ効果的に達成するためのリーディングプロジェクト

No.1 生きもの拠点づくりプロジェクト

大規模な生きもの拠点として玉川野毛町公園の拡張整備を行いその他の公園緑地の整備、管理においても生物多様性配慮した手法を取り入れ、区内の生きものネットワークおよび広域的な生きものネットワークを形成していきます。



No.2 ちょこっと空間づくりプロジェクト

区民参加により、個人宅の庭やベランダ、商店街などで生きものが立ち寄る場をつくる工夫を進めることで、ちょこっとした生物生息空間を広げていきます。



No.3 せたがやカレープロジェクト

活動団体、農業関連団体、学校などのさまざまな主体と連携して、区内農作物を使い、親しみのあるカレーなどをつくるイベントを実施し、生物多様性への関心の向上・農地が持つ多面的機能の理解を進めるきっかけづくりとします。



NO.4 世田谷生きもの会議プロジェクト

活動団体同士が意見を交換できる場を設け、また各団体がより活動しやすくなるよう、専門家派遣制度を実施したり、活動する場をつなぐために、各活動場所において生物調査を実施します。

